

# 研究所だより

第490号  
2025年10月 8日  
発行：土佐清水市教育研究所  
TEL 82-3015

“あれ松虫が 鳴いている ちんちろ ちんちろ ちんちろりん  
あれ鈴虫も 鳴き出した りんりんりんりん りいんりん  
秋の夜長を 鳴き通す ああおもしろい 虫のこえ”  
『虫のこえ』 1912年(明治45年) 文部省(文部科学省)唱歌



## ～収穫の秋・紅葉の秋～

日中の日差しはまだ厳しいですが、朝晩の肌寒さに深まる秋を感じるようになりました。

暦の上では8日は“寒露”。寒露とは、「草花に冷たい露が宿る」という意味です。この頃は、雲ひとつない青々とした空が、清々しい一日を運んできてくれます。そして夜になれば、時間を忘れそうになるほど美しいコオロギなどの虫の鳴き声や、瞬く月や星を観賞できます。秋の澄みわたった空気は、見るもの、聞くものをクリアにしてくれます。秋の夜長に心地よい風を感じながら、温かい飲物を持って夜空を眺めるのもいいですね。

季節の変わり目ですので、健康にはくれぐれもご留意ください。

## 第2回教育支援コーディネーター連絡協議会(あすなろネットワーク)

8月25日(月)に第2回教育支援コーディネーター連絡協議会(あすなろネットワーク)を開催しましたので、その内容について報告します。

今回は要望の多かった「ヤングケアラー研修」を企画し、講師に高知県社会福祉士会ヤングケアラーコーディネーターの門田 美由希 様とヤングケアラー当事者をお招きし、『気づく・つなげる・支える～ヤングケアラー支援の第一歩～』と題して、講演や演習をしていただきました。講師のお話と当事者の方の生の声をお聞きすることができ、本当に有意義な会となりました。

### 1. ヤングケアラーとは

- ・家庭の事情で家族の世話を担う子ども。責任の重さから、勉強や友人関係、自分の時間を諦めている場合もある。
- ・子どもには「生きる・育つ・守られる・参加する」権利があり、ケアを通じて生活力などを得る一方で、心身の負担も大きい。

### 2. 現状と課題

- ・高知県調査では、中学生6人に1人、高校生7人に1人が家族の世話をしており、その約7割が「誰にも相談したことがない」と答えている。
- ・多くは「家族のことを知られたくない」「人に頼る発想がない」など複雑な思いを抱える。

### 3. 支援のポイント

- ・「気づく → つなぐ → 見守る」の流れを重視。
- ・子どもの権利・意思・家族全体を尊重し、関係機関と連携して支援する。
- ・ヤングケアラーであることを本人や家族が自覚していない場合も多く、否定せず、プライバシーやメンタル面にも配慮が必要。

### ○当事者の想いとして 当事者スピーカー 秋本 恵さん

私がうれしかったのは、先生や関係機関の方々が「気にかけてくれている」「見てくれている」と感じられたことです。それだけで頑張ることができました。

今後の願いとしては、ヤングケアラーが抱える思いを安心して打ち明けられる環境が整うことを望んでいます。また、子どもが子どもらしくいられる場所の提供や、支え合えるネットワークづくり、事情に配慮した体制の整備なども大切だと思います。

ヤングケアラーという状況が生まれるのは、誰かの責任ではありません。ケアを受ける人も、望んでそのような体や状況になったわけではないのです。ただ、もっと多くの人に、こういう状況の子どもがいるんだ、ということを知ってほしい、そして、一人ではないということを伝えてあげてほしいです。

### 4 振り返りより

・高知県のヤングケアラーの割合が高いことを知って驚きました。自分自身の子供時代を思い出してみると、やはり仕事の手伝いや家族のお世話を担っている友達がいました。何も分かっていないかった自分が恥ずかしく思います。今回、秋本さんの貴重なお話を聞かせていただき実際学校現場で「なにかおかしいな」「生活がきちんとできていない様子だな」と気づいても温度差?という危機感の違いがあるのが心配です。学校全体での配慮が必要だろうなと思います。そのためにも支援委員会や外部機関との連携といつても黙っていては始まらないので、私達が日々危機感を持って児童生徒を見守っていこうと思いました。色々な学校で様々な家族関係や支援を必要とするケースを見て感じたことを残り少ない教師生活ですが、生かしたいと思います。ありがとうございました。

・実際の経験した事を話していただき、とてもリアルでテレビの中の話のように感じるほどでしたが、これが実際に起こっていた事なんだと思った事でした。清水にも同じような体験をしている子どもがいるかもしれない、もしかしたら在園児でも該当になる子どもがいるかもしれないと思うと、自分たちに何が出来るだろうかと考えるきっかけになりました。園でも共有して今後に繋げていきたいと思います。ありがとうございました。

・当事者のお話を聞く機会はなかなかなかったので、体験されたことや当時の思いなどを聞くことができて大変勉強になりました。

・小さな声かけや気にかけていることを伝えるだけでも心の支えになることがわかり、しっかりと普段から子どもたちのことを見るこの重要性を再確認しました。

## 第1回学力向上検討委員会

9月25日(木)に第1回学力向上検討委員会が開催されました。検討委員会の構成メンバーは、校長会を代表して清水小学校:佐竹 正史校長、清水中学校:門田 直子校長、研究主任を代表して清水小学校:清水 聰教諭、清水中:町田 憲彦教諭、教育委員会:宮上 美智子指導主事並びに教育研究所:渡会・勝間の7人です。

はじめに学力向上検討委員会設置要項を確認し、役員選出を行いました。今年度の委員長に佐竹校長、副委員長に門田校長が選出されました。

### =主な内容=

- 1 令和7年度全国学力・学習状況調査(国語・算数・数学・理科)の業者採点結果について
  - ・問題別調査結果(差異のある問題の分析)を基に土佐清水市の状況について確認
  - ・質問調査より(抜粋)  
「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」の割合は、小学校は高く、中学校は増えてきている。  
「人が困っているときは、進んで助ける」の項目は、小学校は100%、中学校も高い割合となっており、集団として伸びている。  
・「D層の児童生徒の割合」の算出方法と支援について(D層の割合は、全国よりも少ない)  
・R9年度からCBT化、IRTを用いた調査へ変更  
\*テスト観を変えていくこと、タイピング、情報活用能力が必要となること。

### 2 令和7年度標準学力調査の結果について

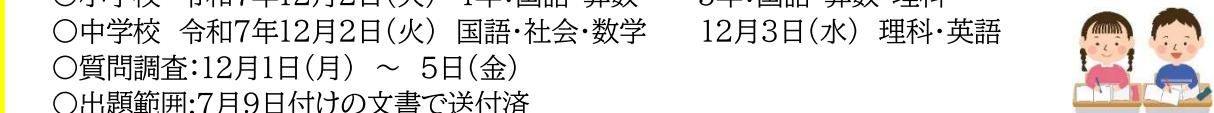
- ・調査結果を下記の項目ごとに確認  
小:全体表(教科)・教科ごとに学年を通して観る([正答率]と[標準スコア])による分析  
全体表(経年比較)・同一集団の成長の過程を追う([標準スコア]による分析)
- 中:全体表(学年)・学年ごとに各教科の状況を観る([正答率]と[標準スコア])による分析  
全体表(教科)・教科ごとに学年を通して観る([正答率]と[標準スコア])による分析  
全体表(経年比較)・同一集団の成長の過程を追う([標準スコア]による分析)

### 3 今後の学力向上に向けた取組について

- ①授業改善 ……「問い合わせ」を持たせる授業、授業の焦点化(ゴールイメージ)  
授業改善プランの活用(PDCAサイクルの徹底)  
全国学力・学習状況調査結果の概要冊子(授業アイディア例)の活用  
各校で分析したことを実践・検証(算数・数学課題)
- ②D層への支援 ……誤答分析、全校体制(組織)のもとでの支援  
(具体的な支援内容を記録に残す)
- ③加力・家庭学習 ……家庭学習習慣化、一人一台端末の活用、デジタルドリル、ダントツノートの活用など、各校で徹底していくこと

### 4 小中学校の取組について(情報交換)

- #### 5 令和7年度高知県学力定着状況調査について(実施時期等の確認)
- 小学校 令和7年12月2日(火) 4年:国語・算数 5年:国語・算数・理科
  - 中学校 令和7年12月2日(火) 国語・社会・数学 12月3日(水) 理科・英語
  - 質問調査:12月1日(月) ~ 5日(金)
  - 出題範囲:7月9日付けの文書で送付済



## =研究協力校の取組=

### ～実るほど頭を垂れる稻穂かな～

三崎小学校では、研究テーマに「地域の特色を生かし『地域との連携・協働』による自立をめざした児童の育成」を掲げ、活動計画の1つに「田植え、稻刈り、精米、餅つき大会などの体験活動を通して、食物の恵みや山と川のつながり等を考える」と位置付け、全校で取り組んでいます。

8月15日(金)には、地域・保護者の皆様のご協力により3~6年生が黄金色に実ったお米の収穫を手刈りで行いました。地域・保護者の方の説明をきちんと聞き、実った稻をしっかり掴み、一生懸命刈り取っていました。ALTのHadley先生や岡村主任もお手伝いに来ており、子どもたちと一緒に刈り取っていました。地域・保護者の皆様からは「一生懸命に取り組んでくれたから、早く刈り取ることができました。」という声が聞こえました。次は餅つき大会です。



真剣に話を聞く子どもたち



稻の束をしっかり握り、一生懸命刈る子どもたち

